

都道府県教育委員会教育長殿  
高等学校長殿  
中学校長殿  
国立大学附属学校長殿

平成 25 年 1 月吉日

金沢大学附属高等学校  
校長 大谷 実

## 第 23 回高校教育研究協議会ご案内

### テーマ 学校改善プロジェクト – 互いに学び合う学校作り –

新春の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

さて、日本の教育現場では、今後 10 年間で教員の 3 分の 1 が退職すると言われていています。本校も若手世代とベテラン世代に大きく分かれ、中堅の世代が少ない教員構成となっています。そのため独自の学校文化の継承が懸念されているのが現状です。このような世代間の乖離が学校運営上の大きな問題となっているのは、全国的な傾向であり、良き日本の学校文化を伝え保持するために、新たな方策を研究することは、決して無駄ではないと考えました。

本校はいわゆる小規模校で、教員間の意思の疎通が図りやすいという特徴があります。また、学校運営の面でも、個々の教員の創意工夫を取り入れ、柔軟に対応してきました。本校は研究校でもあり、様々な改革への取り組みがしやすい環境にあります。

そこで、今般、新時代に向けて「学校改善」をテーマとした研究に取り組みたいと考えました。現在、長期的な展望に立ち、教員全員で学校の細部にまでわたる見直しを行い、あらゆる面からの改革を試みております。その際、教員や生徒の持つ伝統的な教育力を効果的に継承するために、様々な面での「学び合い」をシステムとして構築することが何より重要と考えました。「学び合う学校」とは、教員同士、生徒同士、教員と生徒が学び合うことによって、教員や生徒の持つ共に高め合う力を効果的に発揮させる学校という意味です。

学び合う学校を目指すために、今年度は教員の主体的な参画による改善プロジェクトを実施しています。各プロジェクトは教員個々の授業改善から学校運営に至るまで、様々な場面での学び合いを可視化し、省察するシステムとして位置付けられています。このプロジェクトを遂行することによって、伝統的な学校文化を次世代に継承しながら、本校の一層の充実と活性化を図る方法を模索できればと考えております。

本研究会では、学校改善プロジェクトの概要と各プロジェクトの進捗状況を報告させていただきたいと考えております。本研究はまだ端緒についたばかりですが、情報交換を通じ、本研究活動に対するご批判、ご教示を賜り、より良いプロジェクトに育てていきたいと考えております。

つきましては、公務ご多忙の折とは存じますが、貴校・貴職の先生方に多数ご参加いただきますよう、ご案内申し上げます。

1. 主 催 金沢大学附属高等学校
2. 日 時 平成 25 年 3 月 19 日（火）
3. 会 場 金沢大学附属高等学校  
〒921-8105 金沢市平和町 1 丁目 1 番 15 号  
TEL (076) 226-2154 (代表) FAX (076) 226-2150

#### 4. 日 程

8:45 9:15                      9:45 10:00                      10:50 11:05                      12:15                      13:15                      14:25 14:40                      16:00 16:15

受付	開会行事	趣旨説明 全体会	休憩・移動	公開授業	休憩・移動	フォーラム 1	昼食・休憩	フォーラム 2 5	休憩・移動	講演会	閉会行事
----	------	-------------	-------	------	-------	------------	-------	-----------------	-------	-----	------

#### 5. 開会行事・全体会 (9:15～9:45)

- ・ 学校長挨拶 大谷 実 (校 長)
- ・ 学校改善プロジェクト—互いに学び合う学校作り— 趣旨説明 高橋 栄一 (研究部主任)
- ・ 諸 連 絡 鈴木 達也 (研 究 部)

#### 6. 公開授業 (10:00～10:50) 総合学習・物理・英語・数学・地歴

クラス	教科(科目)	内 容	場 所	授業者
1A	総 合 (台湾現地学習)	台湾現地学習の事前研究のグループ別発表会を行います。調査目的・研究方法・目的など各自がまとめたことを1人5分程度で発表し合い、評価します。	1 A	山本吉次
1B	英 語 (英語 G)	文法項目の説明に終始しやすいグラマーの授業を活性化するため、「グルグル・メソッド」を使い、発音指導を中心にした英文暗唱活動により多くの時間を充てます。	1 B	鈴木達也
1C	総 合 (生活と社会)	12月に行われた、今年度のプランニング対決の学年総合発表会の様子を撮ったビデオを上映します。各クラスの代表3チームの発表です。	1 C	(担当者) 塚田章裕
2L	地 歴 (地理 B)	環境としての自然から気候環境を取り上げます。生徒の出題する復習テストや、質問コーナーへの応答など、学び合う活動を取り入れた授業を実践します。	2 A	高橋栄一
2S1	理 科 (物理 I)	ICT 機器を使った講義形式の授業を行います。その際に、授業改善プロジェクトでの反省点を生かし、生徒同士の学び合いを取り入れた授業を実践します。	理 科 講義室	渡會兼也
2S2	数 学 (数学 B)	授業改善プロジェクトの反省を生かし、生徒同士の学び合いを重視した授業を目指します。ベクトルの問題を多様なアプローチで解決するとともに、その解答を評価し合う授業を実践します。	2 C	外山康平

#### 7. フォーラム1 授業改善プロジェクト (11:05～12:15)

発表者	研究題目	内 容	会場
山本吉次 鈴木達也 高橋栄一 渡會兼也 外山康平	「学び合う」 授業の実践	<p>授業改善は教員にとって永遠のテーマですが、改善方法は個人に任せられており、その結果は殆ど評価されないのが学校現場の現状です。</p> <p>授業改善プロジェクトは国語、数学、英語、理科(物理)、地歴(地理)の教員で構成され、授業のスタイルや形式、生徒とのコミュニケーションのとり方など、多くの点で学び合えることを期待してスタートしました。これまでメンバーはお互いに授業参観を行う中で教科間の授業の違いや共通性を認識し、そこで受けた刺激を元に各教員が課題を設定し、自分の授業を改善する、という作業を繰り返し行なってきました。今回の公開授業はそういった過程を経て作られたものです。</p> <p>本フォーラムでは、そのプロジェクトの経緯と学び合いながら授業改善を行う過程を紹介し、こういった活動の意義や有効性を議論したいと考えています。</p>	美術室

## 8. フォーラム2～5 (13:15～14:25)

	提案者	研究題目	内容	会場
フォーラム2 進路指導改善プロジェクト	隅のどか	キャリア教育の統一と連動	本校では各教科の授業や学校行事など、学校生活のあらゆる場面でキャリア教育を実施しています。しかし、そのほとんどが担当者の裁量に任せられ、各部署でそれぞれに実施されているのが現状です。今回、本校のキャリア教育の実践を整理し、体系化することで課題と改善点を明らかにします。本校としての取組みを模索することにより、各校の取組に寄与できることを期待しています。	3A
フォーラム3 生徒指導改善プロジェクト	鈴木清貴	遅刻指導の改善	このプロジェクトチームは附属高校採用教諭、県立高校交流教諭で構成されています。附属高校の伝統を重んじる視点と、県立高校での視点から意見を出し合い、改善点を探ることとなりました。今年度は「遅刻」を減らすことに焦点を当てます。本校は学年主導の指導が行われており、生徒指導PJ主導で統一した指導を行い、遅刻を減らすための改善策等を探ってみたいと思います。	3B
フォーラム4 部活動活性化プロジェクト	前田健志	活性化の工夫 一限られた環境の中で	部活動に関する本校の現状には、施設の不十分さや指導者の不足、勉学との両立の困難さなど多くの学校に共通する課題があります。今後、「部活動単位による放課後学習」、「部活動合同トレーニング」などの取り組みや、「中高・高大連携」の模索を通してこれらの課題を解決し、部活動を一つの柱とするより良い学校づくりを目指したいと考えています。	2B
フォーラム5 学校広報改善プロジェクト	川谷内哲二	開かれた学校づくりを目指して	これまでの広報活動が十分でなかったため、本校についてよく知らない一般の方や中学生が多いのが実情です。地域との連携や社会への貢献という点から、本校を理解してもらうことが重要です。今年度は、広報活動としての問題点を洗い出し、今後改善すべきことを明確にし、ホームページの充実や、学校行事や授業などの本校の魅力の発信に取り組みました。今回は、これまでの取り組みについて紹介し、多くの方々からご意見をいただき、今後の学校広報のあり方について再検討します。	3C

## 9. 講演会 (14:40～16:00)

題名 「知識基盤社会が求める学力を培うための教師の専門性とは何か」

講師 福井大学大学院教育学研究科教授 教職開発専攻長 松木 健一 氏

### 【講師紹介】

昭和30年生まれ

東北大学 大学院 教育学研究科博士課程後期退学

福井大学 教育地域科学部 助教授

福井大学大学院 教育学研究科 教授

福井大学大学院教育学研究科教職開発専攻長

日本学校心理士協会理事 福井県小児保健協会理事 福井県精神保健協会理事

### 〔主要著書〕

『変わろうよ学校』 東洋館出版 1996

『21世紀の子供と学校』（「21世紀への展望」 島岡清編 リバティ書房 1998）

『知覚から認識へ・認識の障害』（「みるよむ生涯発達心理学」 塚野州一編 北大路書房 2000）

『共同で物語る総合学習』 川島書房 2001

『気がかりな子どもを抱える教師の気がかり』（「教室の中の気がかりな子」 中村圭佐等 朱鷺書房 2003）

『すぐに役立つ特別支援教育コーディネーター入門』 東京書籍 2006

『建築が教育を変える』 鹿島出版 2009

『共に学び共に生きる』 伊那市伊那小学校 信州教育出版 監修 2012

『教師の成長と省察』（「現場で役立つ教育の最新事情」 北樹出版） 2012

## 10. 参加申し込み

申し込み用紙をコピーして必要事項をご記入の上、平成25年3月12日（火）までに、郵送（必着）またはFAX、メールでお申し込み下さい。（参加費不要）

◎ 申し込み先

金沢大学附属高等学校研究部

〒921-8105 金沢市平和町1丁目1番15号

TEL (076) 226-2154 FAX (076) 226-2150

E-mail ohshima@kfshs.kanazawa-u.ac.jp

## 11. 会場への順路

### (1) JR 金沢駅から

- ・バス： 東口北鉄バスのりば⑦番から「平和町」「金大附属学校・自衛隊」方面行き（20番・21番・22番・25番系統）に乗車、「金大附属学校・自衛隊前」で下車。（約30分、バス料金230円）

\*「平和町」行きの場合は、終点「平和町」より徒歩3分。

- ・タクシー： 平和町・金沢大学附属高等学校まで（約25分、料金約2,500円）

### (2) 自家用車

北陸自動車道・金沢西インターより、西インター大通り（野田専光寺線）を直進。（約30分）

山側環状道路をご利用の場合は、野田町西交差点から北に入り、最初の信号（野田町交差点）を寺町方面へ左折してください。（駐車場は校内にあります）



## 12. その他

- (1) 昼食 準備の都合上、ご希望の方は参加申込書にご記入下さい。（料金1000円）
- (2) 宿泊 各自ご手配下さい。

**第23回 高校教育研究協議会 参加申込書**

学校名 \_\_\_\_\_

所在地 (〒 \_\_\_\_\_ )

\_\_\_\_\_ 県

TEL ( \_\_\_\_\_ ) \_\_\_\_\_

お 名 前	午前 (公開授業)	午後 (フォーラム 2~5)				昼食 申込
	参観授業 (○でお囲み下さい)	参加フォーラム (○でお囲み下さい)				
	総合・英語・数学・理科・地歴	2 (進路)	3 (生徒)	4 (部活)	5 (広報)	有 無
	総合・英語・数学・理科・地歴	2 (進路)	3 (生徒)	4 (部活)	5 (広報)	有 無
	総合・英語・数学・理科・地歴	2 (進路)	3 (生徒)	4 (部活)	5 (広報)	有 無
	総合・英語・数学・理科・地歴	2 (進路)	3 (生徒)	4 (部活)	5 (広報)	有 無
	総合・英語・数学・理科・地歴	2 (進路)	3 (生徒)	4 (部活)	5 (広報)	有 無
	総合・英語・数学・理科・地歴	2 (進路)	3 (生徒)	4 (部活)	5 (広報)	有 無
	総合・英語・数学・理科・地歴	2 (進路)	3 (生徒)	4 (部活)	5 (広報)	有 無
	総合・英語・数学・理科・地歴	2 (進路)	3 (生徒)	4 (部活)	5 (広報)	有 無

\*昼食のお申し込みはどちらかを○でお囲み下さい。

※特に話題に取り上げてほしいことや興味関心のあることなどがございましたら、お書きください。